

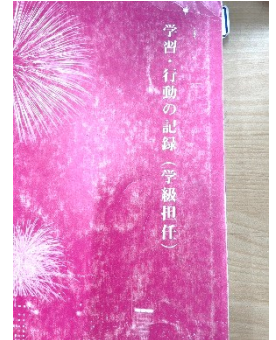
## 第4回 コラム集「こどもと共に育つ」

コラム集「こどもと共に育つ」も第4回目となりました。こどものひろばで活動し、現在、子どもに関わる仕事に就いておられる方にそれぞれコラムを書いてもらっています。小学校教諭、幼稚園教諭、スクールソーシャルワーカー、保育士、カウンセラーという様々な立場の5名の方に、日常の出来事や子どもたちを取り巻く環境などそれぞれの目線でコラムを書いてもらっていますので、ぜひご覧ください。

次号からは一部筆者が変わりますが、引き続きコラム集「こどもと共に育つ」を掲載予定です。

記事を書き始めた頃は、希望というよりは不安が大きく「夏まで続ける」「冬まで続ける」と短期目標で耐えてきましたが、なんとか1年の終わりが見えてきました。かと言って、「ほっ」とは出来ない3月。学年の締め、次の学年への繋ぎとバタバタしております。(結果、1年バタバタし続けました。苦笑)

現在、もっぱら所見というものを作成中です！通知表に載る1年間の成長が書かれたものです。4月当初は日々の忙しさに正直、子供達をじっくりには見れていませんでした。ですが、時間が経つにつれ1人1人がよく見えるようになり、自分自身も僅かながら成長を実感しております。「4月はこんなやっとなー」と1人1人を思い浮かべ、出来るようになったことに喜びを感じながら書き連ねております。一方、公的な文書なため型もあるので、堅くなり頭を悩ませるところです。こんな日々もあと数日、学年終わりまであと数十日、耐え抜きたいと思います。



そして、私事です結婚しました。(つだ)

元 Jr.キャンプのちっちです☆★3回目のコラムの時は【園外保育について】ということについて書かせて貰いました！いつも読んでくださってありがとうございます！

前回のコラムから今回までに“クリスマス会”・“お正月”・“おもちつき”・“節分&豆まき”・“生活発表会”など色んな行事がありました。少しだけ子ども達の様子を書いてみようと思います。クリスマス会ではネイティブの先生がサンタさんに変身をして、プレゼントを届けに来てくれました！子ども達は本当のサンタさんだと思ってお話しをしたりしている姿が可愛らしいです！



「サンタさんは何時にプレゼントを届けに来るの？」と子ども達が質問していましたが…その答えは「シークレット！」でした！残念( ^o^ )！おもちつきでは先生達や年長組のお兄さん・お姉さんがついてる所をみんなで応援しました。実際に小さくわけて丸めて下さっている所もみたり、パワーのこもったお餅を食べたり…今年は本物のお餅ではありませんが色んな廃材や材料を使って鏡餅も作って「年神さまが来ますように〜！」とお願いをして飾りました。節分&豆まきでは本物のイワシを焼いて、一口ずつ食べて…イワシの頭は柊の葉っぱと一緒に部屋前に飾りました。柊の葉っぱも実際に触って「チクチクする！」「これがオニさんが嫌いな葉っぱだね！」と色んな事を知ったり学んだりするきっかけになったと思います。1年の集大成の発表会では「ねこのピート」の劇をしました。「ドキドキするなあ〜」「失敗したらどうしよう…」「お家の人に来てくれるの楽しみ！！」など色んな感情を持っていた子ども達ですが、始まる前に「失敗してもいいから、思い切り楽しんでるところ見て貰おうね！」と言ってから子ども達を送り出しました。本番も凄くイキイキして良い表情で、張り切ってセリフを言ったりしていて、終わった後「めちゃめちゃ楽しかった！」「また、やりたい！」と子ども達の表情は凄く誇らしげでカッコよかったです！

色んな事を経験した子ども達。言葉でお話しを聞くだけ、見るだけではなく、実際に自分たちが触れたり匂ったりするという実体験をすることで本当に色々なことを学べると思います。お正月や節分など、大きな行事は終わってしまいましたが是非、皆さんも色んな事を子ども達と一緒に経験してもらえたらなと思います！！

みなさんお久しぶりです。元のびのび担当のTです。さてさて、このコラムも4回目となるみたいです。そろそろなにを書こうか悩みだしているのでもし書いてほしい内容があれば何らかの方法で伝えていただけると嬉しいです！

そんなこんなですが、今回は、自分が壁に穴をあけていた時のお話をさせて頂ければなあと思っています。普段の私に会ったことがある人なら「え、そんな風に見えるのに！」と驚いてくださるはず…ですが、しっか

りと、なんなら二、三個ぐらい家の壁に穴をあけていた気がします。ごめんなさい。笑  
どんな場面で穴が開くことになるのかというと、たいていは親と言いつ争った時だったと思います。イライラ、もやもやして親に直接手をあげることはしなかったので物に当たった結果穴があくということです。ではなにもやもや、イライラしていたのか。親との話し合いの内容はたいてい学校に行けていない状況などなにか現状うまくいっていないことをどうしていくのかという内容で、親はもちろん落ち着いてただ対話を求めているだけだったと思います。ただその現実と向き合いたくない自分が布団にもぐり無視し続ける結果、2時間、3時間と進まない対話という状況が多々あり、その着地地点として、もうほっといてくれとブチ切れるという感じでした。もちろん2, 3時間部屋に居座る親にも怒っていたと思いますが、それ以上に当たり前のことができていない現実と向き合わなければならない状況と、できていない自分、そしてなにより強かったのが「わかってる！自分が一番わかってるから！」という気持ちだったように思います。じゃあどう接すればいいねんって話ですよ。また次回書ければ書こうと思います。(自分でもわかりませんが笑)



全4回のこのコラム、もう最後です、もう1年が経つんですね。  
さて、前回、前々回と、園長と父親という立場から感じた保育園のあり方ということで「保育園の利用時間」と「父親の育児参加」についてつらつらと書いてきました。

そう、その2回から何が言いたいか…

「保育園だけでは働く親を支えられない」(そんなことは周知の事実だよ、というツッコミは今は控えて…)  
それは、前回伝えた、保育園の運営上の限界が大きいです。  
そして、少し偏った言い方になるかもしれませんが

「保育士が、保育園の中だけを見つめた保育では不十分」

保育園の中でできること、ではなく、その子どもや家族にとって保育園の外でも連続した支援になるような仕組みが必要。それは、法律や制度のような大枠ではなくて、子どもそれぞれの「小さい枠」に合わせた仕組みでいいと思います。

どんなに小さいことでもいいと思います。近所のスーパーを、子どもが親を案内できるくらいにする…みたいなことでも。それだけで、子連れでの買い物が少しラクになるかもしれない…。  
それこそ、父親と子どもだけで行けるかもしれない…

保育園は、その仕組みの一部であることを理解する必要があると思います  
子どもを中心に、小さい枠の一部として動く。  
保育園のあり方として大切なこと、はつまり地域とつながることだと思います。



※関係者の皆さま、10年前より少しは言葉に重みを持たせたいでしょうか(谷崎)



こんにちは。ぴーちゃんです。

別れの季節が近づいてきました。私は3月で大学の相談室から離籍するため、私が担当しているクライアントさん達とお別れすることが決まっています。  
先日、私が担当しているクライアントさん全員にお別れすることを告げたのですが、反応はやはり人それぞれでした。



ショックで沈む人、戸惑いながらも平常心を保とうとする人、受け止めきれずに別の話をしはじめる人。きっとそれ以外にも様々な反応があると思います。  
"別れ"というものは私たちが思っている以上に人に影響を与えるイベントです。  
別れに対してどんな反応をしたとしてもそれは間違いではないと思います。

どんな反応をしたとしても、少なからず何か影響があるはずなので、関係性を築いた相手と別れる際は、別れの作業を大事にして欲しいと思います。

私もクライアントさんと会う残り回数は片手で数えられる回数しかありませんが、別れの作業を丁寧に行いたいと思います。

